

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-23608

(P2000-23608A)

(43) 公開日 平成12年1月25日 (2000.1.25)

(51) IntCl⁷

A 01 K 97/10

識別記号

F I

A 01 K 97/10

キーワード (参考)

A 2 B 1 0 9

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平10-200991

(22) 出願日 平成10年7月15日 (1998.7.15)

(31) 優先権主張番号 特願平10-123800

(32) 優先日 平成10年5月6日 (1998.5.6)

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 597064126

岡田 浩

東京都世田谷区大蔵 5-18-15

(72) 発明者 岡田 浩

東京都世田谷区大蔵 5-18-15

(74) 代理人 100064012

弁理士 浜田 治雄

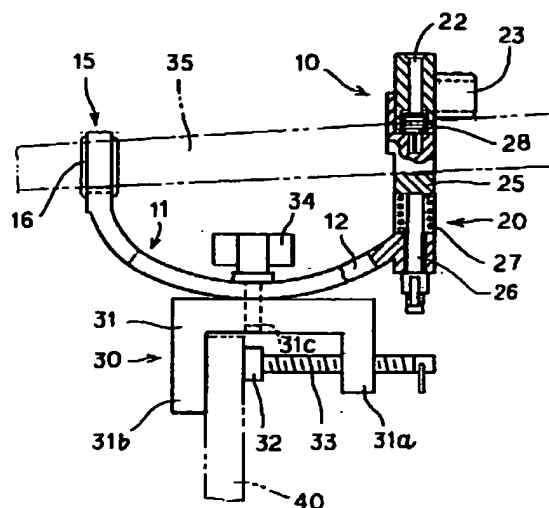
Fターム (参考) 2B109 CA23

(54) 【発明の名称】 竿掛け装置

(57) 【要約】

【課題】 釣り竿の保持、取り外しが極めて容易に行え、釣り竿の保持が確実な竿掛け装置を提供する。釣り竿には突起物が付属せず、重量を軽くでき、釣り竿の操作性を損ねることがない。

【解決手段】 本体11の一侧に設けられ釣り竿を位置決めする竿受け部15と、本体11の他側に設けられ釣り竿を保持する竿保持部20とを備えており、竿保持部20は、本体に間隔をおいて立設された2本の支持軸22、22と、この2本の支持軸のそれぞれに回転可能に支持され、相互に内方に向けて付勢されて当接可能である2個のロックレバー23、24と、前記2本の支持軸の中間に位置し前記2個のロックレバー方向に付勢される押圧部材25とを備え、2個のロックレバー23、24と押圧部材25とにより釣り竿35を保持する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 本体の一側に設けられ釣り竿を位置決めする竿受け部と、本体の他側に設けられ釣り竿を保持する竿保持部とを備え、

竿保持部は、本体に間隔をおいて立設された2本の支持軸と、この2本の支持軸のそれぞれに回転可能に支持され、相互に内方に向けて付勢されて当接可能である2個のロックレバーと、前記2本の支持軸の中間に位置し前記2個のロックレバー方向に付勢される押圧部材とを備え、前記2個のロックレバーと押圧部材とにより釣り竿を保持することを特徴とする竿掛け装置。

【請求項2】 本体の一側に設けられ釣り竿を位置決めする竿受け部と、本体の他側にヒンジ部を介して回転自在に連結され釣り竿を保持する竿保持部とを備え、

竿保持部は、保持部本体に間隔をおいて立設された2本の支持軸と、この2本の支持軸のそれぞれに回転可能に支持され、相互に内方に向けて付勢されて当接可能である2個のロックレバーと、前記2個のロックレバーの回転を規制するストッパーと、前記2本の支持軸の中間に位置し前記2個のロックレバー方向に付勢される押圧部材とを備え、前記2個のロックレバーと押圧部材とにより釣り竿を保持することを特徴とする竿掛け装置。

【請求項3】 竿保持部は釣り竿を保持した状態で釣り竿先端を上方向に向けて回転可能であり、釣り竿先端を下方向に向けて付勢されていることを特徴とする請求項2記載の竿掛け装置。

【請求項4】 本体の下部に、クランプ装置を取り付けたことを特徴とする請求項1または3記載の竿掛け装置。

【請求項5】 本体は円弧状部を有し、クランプ装置の固定ねじにより任意の角度で固定可能であることを特徴とする請求項4記載の竿掛け装置。

【請求項6】 ロックレバーは、バネにより付勢されることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の竿掛け装置。

【請求項7】 ロックレバーは、重力により付勢されることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の竿掛け装置。

【請求項8】 ロックレバーは、磁力により付勢されることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の竿掛け装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、船釣りをするとときに船べりに釣り竿を保持する竿掛け装置に関し、特に釣り竿の保持、取外しの操作がしやすく、確実に保持できる竿掛け装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の竿掛け装置は種々のものがあるが、例えば実開平6-5476号公報に示される

ものがある。この船釣り用竿受けは、図11(a)に示されるように、並設したコ字状クランプ1の上部に挟ませて、支持杆2と該支持杆の下り止め部とを具備し、かつ釣り竿基部の先端側を支持する竿受け部と、係止杆3と該係止杆の上り止め部とを具備し、かつ釣り竿基部の基端側を係止する元受け部とを夫々、別体に、かつ上下に回転自在に枢着したことを特徴としている。

【0003】また、従来のこの種の別の装置として、特開平8-172993号公報に示されるものがある。この船釣り用竿受けは、図11(b)に示されるように、竿受本体4に対して竿5を保持する竿取付片6を竿受本体4に固定される取付けベース7の連結突部に所定角度に簡易に保持できるようにしたものである。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前者の船釣り用竿受けは、船が揺れたときや、大型の魚が掛かったとき、また、他人の釣り竿が誤ってぶつかったとき等、釣り竿が竿受から脱落しやすく、釣り竿自体が海中に落ちやすいという問題がある。後者の船釣り用竿受けは、釣り竿5に竿取付片6を固定するため、釣り竿の重量が増すとともに突起物が付属するため操作性が悪くなり、釣り味が大きく損なわれるという問題がある。

【0005】本発明は、前記問題点を解決するためになされたものであり、釣り竿の保持や取外しが容易であり、釣り竿の保持が確実に脱落する可能性が低く、釣り竿自体の操作性を損ねることがなく、釣り味を大切にできる竿掛け装置を提供することを目的とする。また、必要に応じて釣り竿を上下に揺り動かして寄せ餌を撒いて釣り果を上げることができる竿掛け装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】前記の目的を達成するため、本発明に係る竿掛け装置は、本体の一側に設けられ釣り竿を位置決めする竿受け部と、本体の他側に設けられ釣り竿を保持する竿保持部とを備えており、竿保持部は、本体に間隔をおいて立設された2本の支持軸と、この2本の支持軸のそれぞれに回転可能に支持され、相互に内方に向けて付勢されて当接可能である2個のロックレバーと、前記2本の支持軸の中間に位置し前記2個のロックレバー方向に付勢される押圧部材とを備え、前記2個のロックレバーと押圧部材とにより釣り竿を保持することを特徴とする。

【0007】本発明に係る他の竿掛け装置は、本体の一側に設けられ釣り竿を位置決めする竿受け部と、本体の他側にヒンジ部を介して回転自在に連結され釣り竿を保持する竿保持部とを備えており、竿保持部は、保持部本体に間隔をおいて立設された2本の支持軸と、この2本の支持軸のそれぞれに回転可能に支持され、相互に内方に向けて付勢されて当接可能である2個のロックレバーと、前記2個のロックレバーの回転を規制するストッパ

一と、前記2本の支持軸の中間に位置し前記2個のロックレバー方向に付勢される押圧部材とを備え、前記2個のロックレバーと押圧部材とにより釣り竿を保持することを特徴とし、竿保持部は釣り竿を保持した状態で釣り竿先端を上方に向けて回転可能であり、釣り竿先端を下方に向けるように付勢するように構成されている。

【0008】本体の下部に、クランプ装置を取り付けるようにすることができ、本体は円弧状部を有し、クランプ装置の固定ねじにより任意の角度で固定するようにしてもよい。ロックレバーはバネにより付勢されるようにしてもよく、重力により付勢されるようにしてもよく、また、磁力により付勢されるようにしてもよい。

【0009】前記のように構成された竿掛け装置によれば、釣り竿を2個のロックレバー間に押し当て、ロックレバー間を通過させるだけで容易に保持することができ、釣り竿は押圧部材によりロックレバー方向に付勢されるため保持は確実である。また、釣り竿を外すときは、釣り竿の先端側を上方に向けて持ち上げるだけで、あるいは指により2個のロックレバーを広げるだけの操作で、極めて容易に行える。

【0010】ストッパーにより2個のロックレバーの回転を規制して釣り竿を確実に保持した状態で、本体に対して竿保持部を回転させることにより、釣り竿先端を揺り動かして海中の寄せ餌入れから寄せ餌を海中に撒くことができる。

【0011】

【発明の実施の形態】発明の実施の形態を図面を参照して説明する。図1は本発明に係る竿掛け装置の一実施形態の平面図、図2は図1の一部を破断した状態の正面図、図3は図2の竿保持部の右側面図、図4は竿保持部の左側面図である。図1～4において、竿掛け装置10は本体11と、本体11の下部に取り付けたクランプ装置30とから構成され、本体11は、前方側の一侧に設けられ釣り竿35を位置決めする竿受け部15と、後方側の他側に設けられ釣り竿35を保持する竿保持部20とを備えている。

【0012】竿受け部15は本体11より上方に向けて2本のアーム15a、15aを突設させた略U字状をしたものであり、釣り竿35の先端部が載置され、左右方向の移動を阻止して位置決めするように構成されている。竿受け部15の内面には釣り竿35を載置するときの緩衝と、釣り竿35の滑り止めのためのゴム等から形成されるクッション材16が貼着されている。本体11は金属ダイキャスト、プラスチック材等から構成され、プラスチック材の場合は補強のため、ガラス繊維、炭素繊維等の強化プラスチックが使用されることが望ましい。

【0013】竿保持部20は本体11の他側に一体的に突設された2本の柱部21、21と、この柱部の上部に所定の間隔を有して平行に固定された2本の支持軸2

2、22と、この2本の支持軸のそれぞれに回転可能に支持され、相互に内方に向けて付勢されて当接可能である2個のロックレバー23、24と、2本の支持軸22、22の中間として、柱部21、21の中央部に位置する押圧部材25とを備えている。支持軸22、22は柱部21、21に圧入、ねじ止め等により固定され、上部の拡径部によりロックレバー23、24の脱落を防止している。

【0014】押圧部材25は本体11に穿設された中心孔に上下動可能に支持された中心軸26の上部に固定され、圧縮バネ27によりロックレバー23、24の方向に付勢されており、その上面は中央部が低い円弧面25aに形成されている。押圧部材25は、中心軸26に螺合する蝶ねじ26aにより上下方向のストロークが調節できる構成である。押圧部材25の上面には、釣り竿35が滑るのを防止するためのクッション材25bが貼着されている。

【0015】ロックレバー23、24は図3に示されるように、上面は外側が高く内側が低く、すなわち外側より内側に向けて下方に傾斜した傾斜面23a、24aに形成され、その下面は外側が低く内側が高く、すなわち外側より内側に向けて上方に傾斜した傾斜面23b、24bに形成されている。そして、押圧部材の円弧面25aとロックレバーの傾斜面23b、24bとにより、釣り竿35を中央部に安定して保持することができる。

【0016】ロックレバー23、24は図1の実線の矢印に示されるように、2個のロックレバーが当接した位置から後方に向けて、換言すると手元側に向けて約90度の回転範囲を有しており、90度回転したときに最大開口幅Wとなり、この開口幅までの釣り竿35が保持可能となる。そして、前記した回転範囲を規制する規制壁部11a、11bが本体11と一体的に突設されている。

【0017】ロックレバー23、24を支持する支持軸22、22にはバネ28、28が装着されており、図1の2点鎖線の矢印にて示されるように一方のロックレバー23には反時計回転方向の回転力が付与され、他方のロックレバー24には時計回転方向の回転力が付与されており、ロックレバー23、24は相互に内方に向けて付勢され、その先端部が相互に当接可能である。また、ロックレバー23、24の後方に延出した延出部には永久磁石29、29が接着等により固着されており、両ロックレバーの当接時のロック力を強化し、釣り竿35の保持を強化するものである。なお、ロックレバー23、24は後方に延出した延出部により、前方方向への回転が、より強力に阻止される。

【0018】本体11は図2に示されるように、中央の板状部が円弧に沿って湾曲されており、この円弧状部には中心に沿って取付溝12が形成されている。クランプ装置30はコ字状のベース31と、このベースの一方の

垂直辺31aに螺合され先端にクランプ片32を回転可能に支持したクランプねじ33とから構成され、クランプ片32と他方の垂直辺31bとの間に、例えば釣り船の船べり40を挟持するものである。クランプ装置30のベース31の中央辺には固定用の雄ねじ31cが形成され、本体11の取付溝12を貫通して固定ねじ34を前記雄ねじに螺合させることにより、本体11とクランプ装置30とを結合するものである。固定ねじ34を緩め、本体11を取付溝12に沿って移動させることにより、本体11はクランプ装置30に任意の角度で固定可能であり、釣り竿35の角度を変えることができる。なお、ベースに雄ねじを突設し、この雄ねじに螺合される螺ナットにより、本体とクランプ装置とを結合するように構成してもよい。

【0019】本実施形態の構成は以上の通りであり、以下に動作について説明する。竿掛け装置10はクランプ装置30により釣り船の船べり40に固定される。すなわち、クランプねじ33をゆるめてクランプ片32と他方の垂直片31bとの間に船べり40を挟み、クランプねじ33を締めて船べり40を挟持することにより竿掛け装置10を船べり40に固定する。固定ねじ34を緩めることにより本体11は取付溝12に沿って移動可能であり、釣り竿35を任意の角度で固定することができる。

【0020】竿掛け装置10に釣り竿35を保持するときは、動作状態を示す図5に示されるように、釣り竿35の前方を竿受け部15のアーム15a、15a間に位置させ、釣り竿35を竿保持部20のロックレバー23、24の中央部に押圧する。竿受け部15からの水平線と、竿受け部15とロックレバーの押圧部とを結ぶ延長線との角度を α とすると、押圧力F1の手元方向の分力F1xは、 $F1x = F1 \sin \alpha$ となり、この分力F1xによりロックレバー23、24を開く方向に、すなわちロックレバー23を時計回転方向に、ロックレバー24を反時計回転方向に回転させる。

【0021】また、ロックレバー23、24は上面が傾斜面23a、24aとなっているため、釣り竿35にて押圧するときにロックレバーの中央部を押圧しやすいという効果がある。これによりロックレバー23、24はバネ28、28に抗して相互に開き、釣り竿35はロックレバー間を通過する。さらに釣り竿35を押圧すると、押圧部材25を圧縮バネ27に抗して押し下げ、ロックレバー23、24はバネ28、28により復帰して相互に当接して閉じる。

【0022】釣り竿35の押圧をやめると、釣り竿35は押圧部材25の圧縮バネ27により上方に押圧され、釣り竿35をロックレバー23、24と押圧部材25とにより挟んで保持する。釣り竿35はロックレバーの下面の傾斜面23b、24bと、押圧部材25の上面の円弧面25aとにより挟まれて保持されるため、中央部に

安定して保持することができる。このように、釣り竿35を竿受け部15に載置してロックレバー23、24間に押し当てるだけで、極めて容易に保持することができる。

【0023】この保持状態を示す図6において、釣り竿35と押圧部材25との交点pに対し、釣り竿35とロックレバー23、24との交点qは、釣り竿の手元側に位置している。このため、釣り竿35の先端が仕掛けについているオモリや魚により下方に力P1により引かれると、竿受け部15の支点rを中心として釣り竿35の交点qには上方への力F2が作用する。この力F2はロックレバー23、24の後端に作用し、その水平方向の分力F2xはロックレバーを閉じる方向に作用するので、釣り竿35が誤って外れることがなく保持は確実に行われる。また、釣り竿35が先端方向に力P2で引かれた場合は、釣り竿35と押圧部材25との摩擦力R1、およびロックレバー23、24と釣り竿35との摩擦力R2により充分に対抗でき、釣り竿35が竿掛け装置10から外れることはない。

【0024】釣り竿35を竿掛け装置10から取り外すときは、動作状態を示す図7に示されるように、釣り竿35の前方を持ち上げて竿受け部15から外し、さらに前方を持ち上げると、釣り竿35はロックレバー23、24の前方の角部と、押圧部材25の後方の角部に当接し、後方の角部を支点としてロックレバー23、24を力F3で押圧し、水平方向の分力F3xでロックレバーを押し広げる。これにより、釣り竿35はロックレバー23、24間を通過し、釣り竿35を極めて容易にフリーの状態に取り外すことができる。しかも釣り竿35には前記した従来技術の後者のような固定部材が装着されず、釣り竿35の操作は容易に行える。

【0025】また、図6に示すように、釣り竿35を竿受け部15に載置したままの状態、ロックレバー23、24の中央部を指にて後方（手元方向）に力F4で押圧することにより、ロックレバー23、24は容易に開くため、釣り竿35を通過させることにより容易に取り外すことができる。

【0026】つぎに本発明の他の実施形態について、図8～10を参照して説明する。図8は他の実施形態の要部正面図である。図8の実施形態においては、竿保持部50は本体の他側に一体的に突設された2本の柱部51、51と、この柱部の上部に所定の間隔を有して後方に傾斜するように、角度 β をもって固定された2本の支持軸52、52と、この2本の支持軸に回転自在に支持され相互に当接可能である2個のロックレバー53、54と、2本の柱部の中央部に位置する押圧部材55とを備えており、押圧部材55は圧縮バネ56によりロックレバーの方向に付勢されている。

【0027】この実施形態においては、ロックレバー53、54が開いたときと当接したときとで釣り竿35の

当たり面の位置が d だけ下がる。このため、釣り竿35を開こうとすると当たり面が d だけ下がり、押圧部材55を d だけ下げたため、圧縮バネ56が短縮されて押上力が大きくなるので、釣り竿35を保持する力を強化することができる。角度 β は最大60度程度の角度が用いられ、角度 β が大きいほど保持する力が大きくなり、大型の釣り竿、リールに適する。また、小物釣りでは角度 β を0~30度程度に小さくして保持力を小さくし、早い手返しができるように扱いやすくすることが好ましい。

【0028】つぎに、図9に示す実施形態を説明する。図9(a)は竿保持部の右側面図、(b)は他の竿保持部の右側面図である。この実施形態においては、竿保持部60は本体の他側に一体的に突設された2本の柱部61、61と、この柱部の上部に所定の間隔を有して上方に向けてつばまるように、角度 γ をもって固定された2本の支持軸62、62と、この2本の支持軸に回転自在に支持され相互に当接可能である2個のロックレバー63、64と、2本の柱部の中央部に位置する押圧部材65とを備えている。角度 γ は10~45度程度の角度が用いられる。

【0029】この実施形態においては、ロックレバー63、64は重心が支持軸62、62の内側に位置するため、重力の分力が回転力として働き、バネを使用しなくてもロックレバーは内側に向けて自動的に回転し、永久磁石66、66により両ロックレバーは吸着される。このため、ロックレバーを内方に向けて付勢するバネを省略することができ、構成を簡単にすることができ、バネの耐久性も問題とならない。

【0030】図9(b)は、図9(a)のように角度 γ だけ2本の支持軸62、62を傾斜させた場合、ロックレバー63、64間の開口幅が小さくなるのを避けるため、支持軸62A、62Aを外側に移動させた例を示している。これにより、図9(a)の開口幅 $W1$ が図9(b)の開口幅 $W2$ に大きくなり、より大径の釣り竿を保持することができる。この例ではロックレバー63、64の付勢は重力により行われ、しかも釣り竿35が通過する開口幅を減少させることがないという効果を有する。

【0031】さらに、図10の実施形態を説明する。図10はその右側面図である。この実施形態においては、竿保持部70は本体の他側に一体的に突設された2本の柱部71、71と、この柱部の上部に所定の間隔を有して上方に向けて広がるように、角度 δ をもって固定された2本の支持軸72、72と、この2本の支持軸に回転自在に支持され相互に当接可能である2個のロックレバー73、74と、2本の柱部の中央部に位置する押圧部材75とを備えている。この実施形態では支持軸72、72が外側に広がるため、ロックレバー73、74は重力の分力により外方に向けて付勢されるため、バネ76

はバネ定数の大きいものが用いられる。永久磁石77、77がロックレバーの後端部に固着され、ロックレバー73、74を吸着する構成である。

【0032】この実施形態においては、ロックレバー73、74の支持軸72、72は上方に向けて広がるように構成されているため、釣り竿35が通過する間隔が大きくとれるので、本体全体の幅が小さくても大径の釣り竿を保持することができ、全体をコンパクト化することができる。

10 【0033】本発明のさらに他の実施の形態を図12~17を参照して説明する。図12は本発明に係る竿掛け装置のさらに他の実施形態の平面図、図13は図12の一部を破断した状態の正面図、図14(a)は図12の竿保持部を示す右側面図、図14(b)は図12の竿受け部を示す左側面図、図15は動作状態を示す斜視図であり、(a)はストッパーの作動状態を示し、(b)はストッパーの解除状態を示し、(c)はロックレバーが開いた状態を示している。図16は竿保持部を本体のヒンジ部に対して回転させた状態の一部破断正面図、図17は竿保持部を本体のヒンジ部に対して回転させた状態の動作説明図である。なお、前記した実施形態と実質的に同一の構成については同一の参照符号を付して詳細な説明は省略する。竿掛け装置80は本体81と、本体81の下部に取り付けたクランプ装置30と、本体81の後方側の他側にヒンジ部82を介して回転自在に連結され釣り竿35を保持する竿保持部90とから構成され、本体81は、前方側の一侧に釣り竿35を位置決めする竿受け部15が設けられ、取付溝83が形成されている。

30 【0034】ヒンジ部82は本体81の後方(手元)側の端部に設けた軸受部と竿保持部90の保持部本体91の軸受部82aとを軸82bにより連結したものであり、軸受部82aによりその回転範囲が規制されており、また軸82bに巻回された戻りバネ82cにより釣り竿35を保持した状態で釣り竿先端を戻りバネ82cに抗して上方に向けて回転可能であり、釣り竿先端を下方に向けるように付勢されている。

【0035】竿保持部90は、保持部本体91に間隔をおいて立設された2本の支持軸92、92と、この2本の支持軸のそれぞれに回転可能に支持され、バネ92a、92aにより相互に内方に向けて付勢されて当接可能である2個のロックレバー93、93と、2個のロックレバーの回転を規制するストッパー94、94と、2本の支持軸の中間に位置し2個のロックレバー方向に付勢される押圧部材25とを備え、2個のロックレバー93、93と押圧部材25とにより釣り竿35を保持するように構成されている。保持部本体91にはロックレバー93、93の回転範囲を規制する規制壁部91a、91aが一体的に突設されている。

50 【0036】ストッパー94、94は、図13において

矢印xにて示されるように90度の範囲で回動可能であり、垂直に立った状態がストッパーの作動状態で、規制部94aがロックレバー93、93の回転を阻止する。また、2点鎖線にて示される水平の状態は解除状態であり、規制部94aがロックレバー93、93の回転中心側に移動するため、ロックレバー93、93は相互に回転することができ、前記実施形態と同様に釣り竿35が通過することができる。ストッパー94、94はロックレバー93、93の内側にピンにより回動可能に支持されており、摩擦力により垂直位置、水平位置に保持することができる。

【0037】水平位置のストッパーの解除状態においては、ストッパー94、94の上面は図14に示されるように中心に向かって傾斜面となっているため、この部分に釣り竿35を押し付けることによりロックレバー93、93を容易に開かせることができ、前記した実施形態と同様に釣り竿35を容易に保持することができる。また、ロックレバー93、93の下面の傾斜面と押圧部材25の上面の円弧面とにより釣り竿35を確実に保持することができる。

【0038】本実施形態の竿受け部90は、図16～17に示されるように本体81に対して回動させることができる。すなわち、ストッパー94、94を垂直にした作動状態においてロックレバー93、93を回転不能とし、竿受け部90に釣り竿35を保持させた状態で釣り竿を上下させることができる。釣り竿35を上方に回動させるときは戻りバネ82cに抗して回動させ、下方に回動させるときは力を緩めることにより戻りバネ82cにより復帰する。このようにして、海中に投入した寄せ餌入れ95を揺り動かすことができ、寄せ餌96を海中に撒くことができる。そして、寄せ餌に魚が集まってきたり釣り果を高めることができる。

【0039】この実施形態においては、前記した実施形態と同様に釣り竿を極めて容易に保持できるとともに取り外しも極めて容易に行うことができ、保持は確実であるという効果のほかに釣り竿を必要に応じて回動させ寄せ餌を海中に撒くことができるという効果を奏する。

【0040】なお、前記した実施形態では、押圧部材の上面は円弧形状のものを示したが、2つの傾斜面を有するV字形状のものでもよく、ロックレバーの上面、下面は傾斜面で構成したが、中央の低い円弧面で構成してもよいのは勿論である。

【0041】また、ロックレバーを付勢する構成として、バネ、重力、永久磁石の例を示したが、これらを単独に用いてもよく、任意の2つを共用してもよく、また3つを共用するように構成してもよい。

【0042】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、2つのロックレバー間に釣り竿を押し込むだけの容易な操作で釣り竿を保持することができ、釣り竿を取り外す

ときも極めて容易に行え、釣り竿の保持が確実である。また、釣り竿に固定部材が固定されないため、突起物が付属せず、重量を軽くでき、釣り竿の操作性を損ねることがない。

【0043】また、竿保持部を本体に対して回動可能に構成すれば、釣り竿は竿保持部に確実に保持された状態で上下に揺り動かすことができ、海中の寄せ餌入れを上下動して寄せ餌を海中に撒くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る竿掛け装置の一実施形態の平面図である。

【図2】図1の一部を破断した状態の正面図である。

【図3】図2の竿保持部の右側面図である。

【図4】図2の竿保持部の左側面図である。

【図5】釣り竿を保持するときの動作状態説明図である。

【図6】釣り竿を保持しているときの動作状態説明図である。

【図7】釣り竿を取り外すときの動作状態説明図である。

【図8】竿保持部の他の実施形態の要部正面図である。

【図9】(a)は竿保持部の他の実施形態の右側面図、(b)はさらに他の例の右側面図である。

【図10】竿保持部の他の実施形態の右側面図である。

【図11】(a)は従来技術を示す概略斜視図、(b)は他の従来技術を示す概略正面図である。

【図12】本発明に係る竿掛け装置のさらに他の実施形態の平面図である。

【図13】図12の一部を破断した状態の正面図である。

【図14】(a)は図12の竿保持部を示す右側面図、(b)は図12の竿受け部を示す左側面図である。

【図15】動作状態を示す斜視図であり、(a)はストッパーの作動状態を示し、(b)はストッパーの解除状態を示し、(c)はロックレバーが開いた状態を示している。

【図16】竿保持部を本体のヒンジ部に対して回動させた状態の一部破断正面図である。

【図17】竿保持部を本体のヒンジ部に対して回動させた状態の動作説明図である。

【符号の説明】

10、80 竿掛け装置

11、81 本体

11a、11b、91a、91b 規制壁部

12、83 取付溝

15 竿受け部

20、50、60、70、90 竿保持部

21、51、61、71 柱部

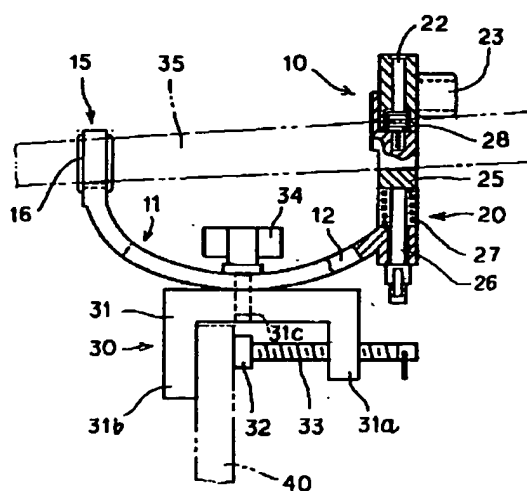
22、52、62、62A、72、92 支持軸

23、24、53、54、63、64、73、74、9

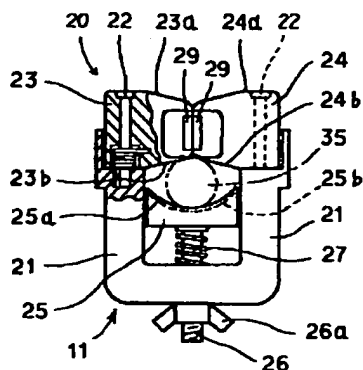
12

- 33 クランプねじ
34 固定ねじ
35 釣り竿
40 船べり
82 ヒンジ部
82a 軸受部
82b 軸
82c 戻りバネ
91 保持部本体
10 94 ストッパー
95 寄せ餌入れ

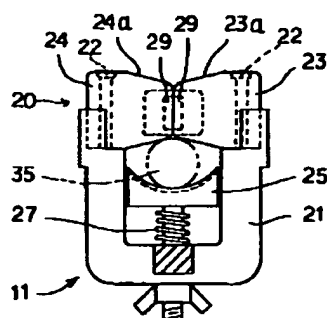
【图2】



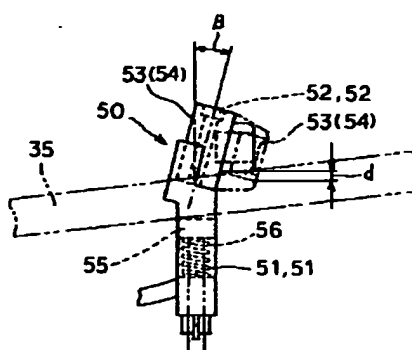
【図3】



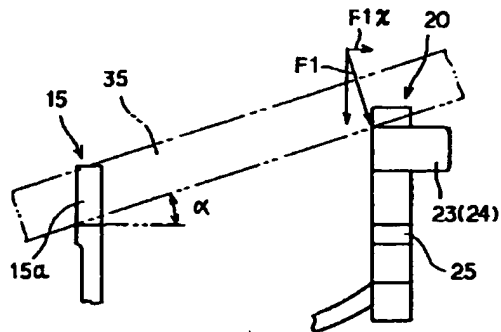
【図4】



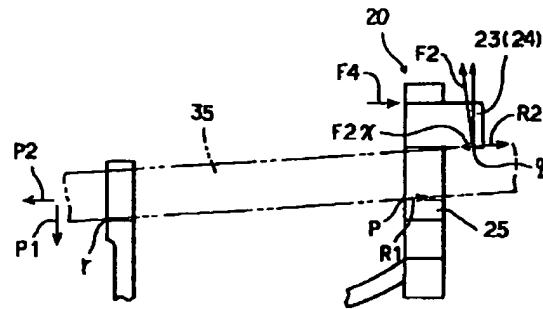
【図8】



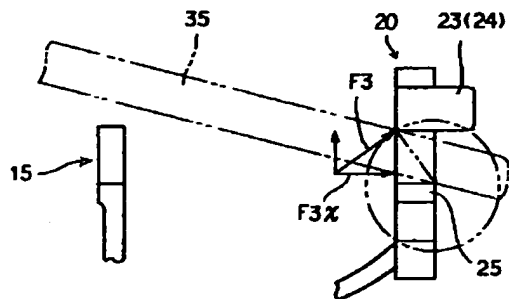
【図5】



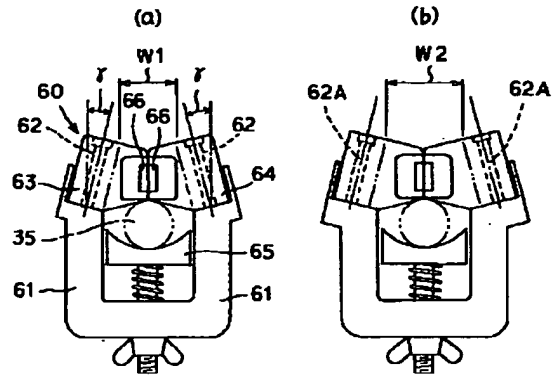
【図6】



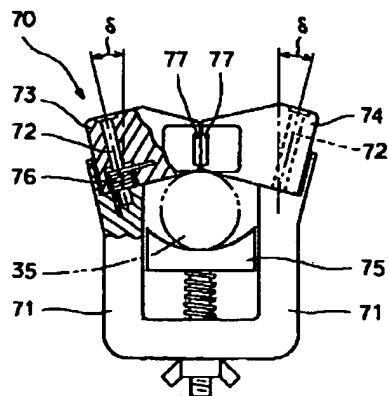
【図7】



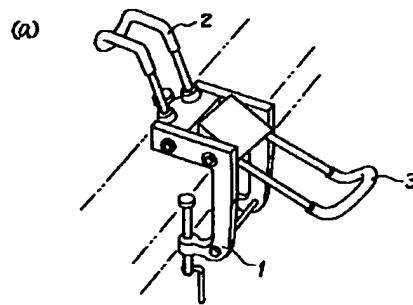
【図9】



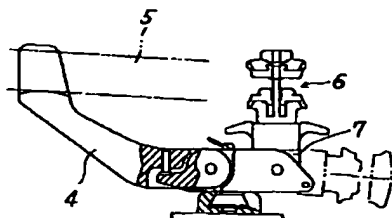
【図10】



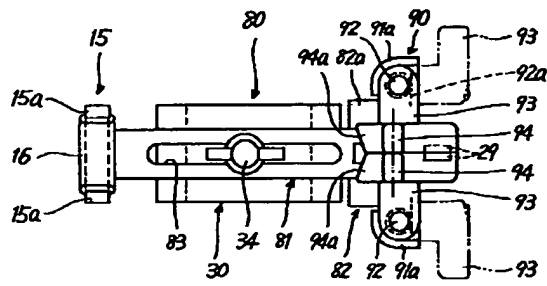
【図11】



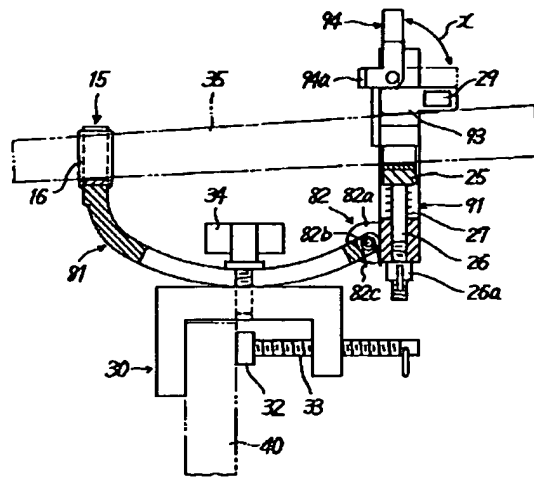
(b)



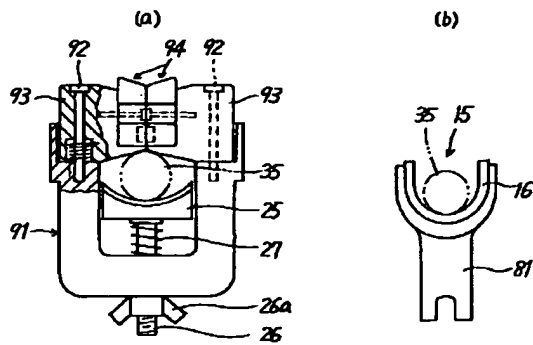
【図12】



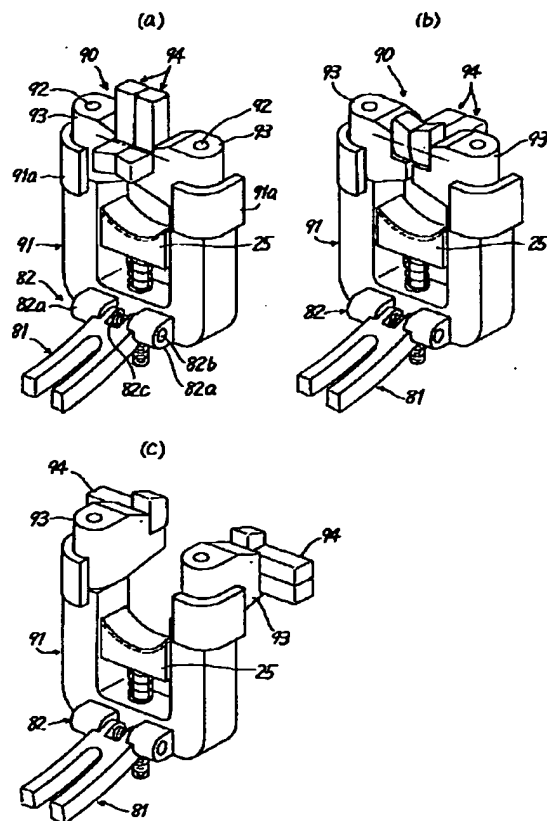
【図13】



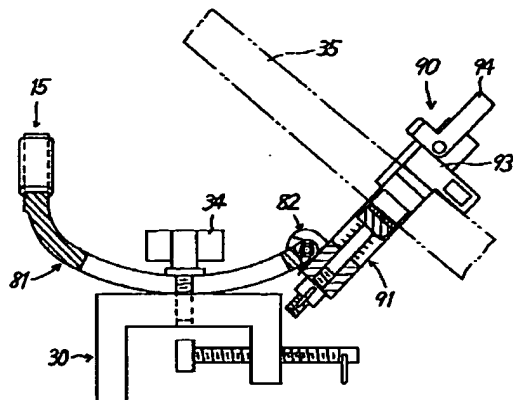
【図14】



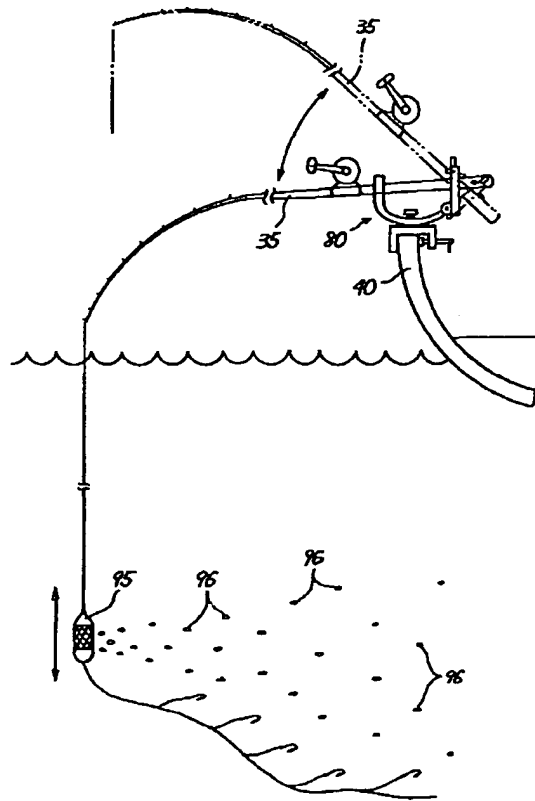
【図15】



【図16】



【図17】



DERWENT-ACC-NO: 2000-174641

DERWENT-WEEK: 200016

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Rod holder for e.g. fishing rod

PATENT-ASSIGNEE: OKADA H[OKADI]

PRIORITY-DATA: 1998JP-0123800 (May 6, 1998)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 2000023608 A	January 25, 2000	N/A
010 A01K 097/10		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2000023608A	N/A	1998JP-0200991
July 15, 1998		

INT-CL (IPC): A01K097/10

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000023608A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - A pole receiver (15) is formed on one end of a body (11) to position the fishing rod (35), while a pole holder (20) is formed on the other end. Two support shafts (22) abut on two lock levers (23,24) to support the pole holder. A pressure member (25) is provided in the middle of the support shafts and energized to the lever direction. The fishing rod is held by the levers and the pressure member.

USE - For e.g. fishing rod. Used for clamping the fishing rod to a boat. Used for boat fishing.

ADVANTAGE - Holds the fishing rod by a simple operation. Performs easy

detachment of the fishing rod. Prevents damaging the operativeness of the fishing rod since weight is of the holder is reduced. Performs the up and down movement of the fishing rod in a stable state.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure shows the front elevation view which fragmentates the parts of a rod holder.

Body 11

Pole receiver 15

Pole holder 20

Support shaft 22

Lock lever 23,24

Pressure member 25

Fishing rod 35

CHOSEN-DRAWING: Dwg.2/17

TITLE-TERMS: ROD HOLD FISH ROD

DERWENT-CLASS: P14

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2000-130150